

新潟大学全学英語ハンドブック

(平成 27 年度版)

自主学習用の CALL (Computer-Assisted Language Learning)
教材や**全学英語ポータルサイト**なども積極的に利用して自
主的に英語学習を進めましょう。
詳しくは、本書の第 1 章と第 5 章をご覧ください。

学 部	
学科・課程	
在 籍 番 号	
氏 名	

目 次

はじめに	1
第1章 CALL教材（ALC NetAcademy2）について	2
1 ALC NetAcademy2 学習の開始と終了	5
2 ALC NetAcademy2 各機能の説明	7
3 ALC NetAcademy2 利用上の注意	11
第2章 基本語彙	12
1 基本語彙（アルク社「標準語彙水準12000」（SVL））について	12
2 接辞	14
3 熟語	19
第3章 基本文法	23
1 「基本文法」の説明方法と用語	23
2 動詞	27
3 動詞を述語とする代表的構文(1)：述語連結要素の現れ方	31
4 準動詞	36
5 動詞を述語とする代表的構文(2)：to+動詞・動詞+ingを述語連結要素として	40
6 名詞	43
7 代名詞	46
8 形容詞	50
9 形容詞を述語とする代表的構文	52
10 前置詞	55
11 副詞	58
12 接続詞	60
13 疑問文	64
14 助動詞	65
15 仮定法	69
16 否定文	70
17 関係詞	71
18 比較	75
19 省略	77
20 情報構造と特殊語順構文	80
21 復習(1)：「基本文法」で取り上げた代表的な構文	83
22 復習(2)：名詞句を修飾する要素	85
第4章 英語の音声について	87
1 発音記号	87
2 強勢	93
3 イントネーション	97
4 音の連続	98
5 最後に	100
第5章 英語の自主学習支援	101

はじめに

新潟大学では「自律と創生」を理念として掲げ、英語に関しても課外での積極的な学習を重視している。全学英語教育では、CALL (Computer-Assisted Language Learning) 教材としてアルク社のALC NetAcademy2が導入され、この教材を利用した英語の授業時間外の学習を推奨している。本書では、まず、このALC NetAcademy2の機能の説明、学習の仕方、利用上の注意を解説している。また、ALC NetAcademy2と連携させる形で、単語学習教材として、アルク社の「標準語彙水準SVL12000」を使用することにしており、本書では、この「標準語彙水準SVL12000」の紹介も行っている。

同時に、本書では、新潟大学で開講される「アカデミック英語」「基礎英語」を履修し、新潟大学の学生として習得しておかなければならない英語の知識を、接辞、熟語、文法、音声などの分野に渡って説明している。また、「発展英語」「応用英語」などの上位の授業を視野に置き、有益であると考えられる様々な項目についても解説をしている。

アルク社のALC NetAcademy2と「標準語彙水準SVL12000」に関する解説については、なるべく早い段階で熟読して、授業時間外の学習の準備を進めて欲しい。

接辞、熟語の項目は、7月上旬までの間にすべてをチェックし、知らない項目については辞書などで調べておく必要がある。特に、熟語については、TOEIC® 試験を意識してリスト化されているので、TOEIC® 受験が近づくまでに、熟語力の強化に努めてほしい。

文法に関する項目は、「基本事項」と「解説」に二分される。1年次第1学期の「アカデミック英語(リーディング)」の履修が終了するまでに、「基本事項」のすべてに目を通して確認をしておいてほしい。「解説」の部分では、犯しやすい誤りや、憶えておく便利な点などを説明している。有益な情報であるので、一度目を通しておくことを勧めたい。

音声の部分では、英語の母音・子音の発音の方法、単語の強勢、イントネーション、音連続での音変化などについて、詳しく説明している。音読とリスニングのための参考知識として用意したものであるが、TOEIC® のためのリスニング練習などでも、大いに活用してほしい。なお、音声は全学英語ポータルサイトで聴けるようになっている。

文法、音声のいずれの部分においても、高等学校までで学習した英語の知識を再構成しながら、それぞれの項目を各自で確認できるように工夫したつもりである。ただし、高等学校までの学習対象になっていないと思われる項目についても説明をしている。「発展英語」「応用英語」や学部英語の学習に有益であると判断したためである。逆に、分量的制約から、対象とする項目を限定しなかったことも事実である。さらに、例外的事実の説明を省略した部分も少なくない。これらの点に関しては、しかるべき文法書を参考にして頂きたい。

全学英語ポータルサイトの説明が最終章である。全学英語ポータルサイトは、授業時間外の自律的学習を支援するために立ち上げられているので、積極的に利用してほしい。

最近では、授業時間外の学習の積み重ねがこれまで以上に重要になってきている。本書が、そのような学習の一助となることを願いたい。

本書の改訂に関しては、記述量の過不足、内容の正確さ・適切さも含めて、さらに修正加筆の作業を継続して行くことにしている。忌憚のないご意見を頂ければ幸いである。

最後となるが、本書の作成、特に英語例の確認に関して、元新潟大学准教授のメギール・イーエン・クリストファー氏にお世話になった。ここに記して感謝の意を表したい。当然のことではあるが、この副教材に誤りがあれば、その責任は著者にある。